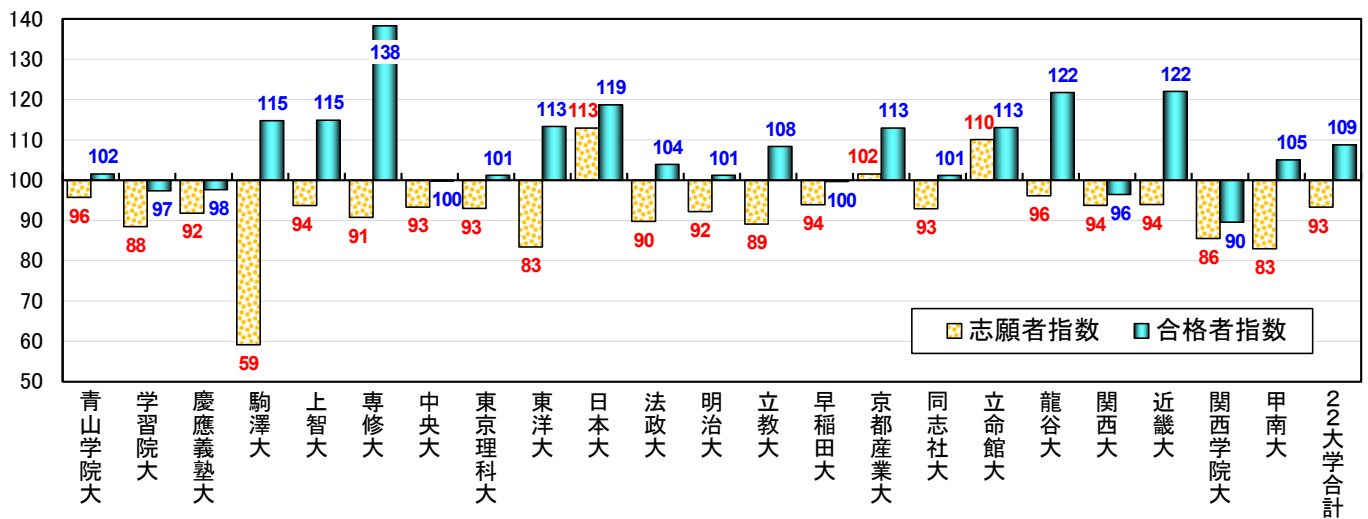


2020年度入試状況分析【私立大】

◎主要私立22大学 入試結果概況

□志願者数が増加したのは日本大、立命館大、京都産業大の3大学のみ



※前年度を100とする指数

大学	2020年度		2019年度		増減数		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2020年度/2019年度	2019年度/2018年度	2020年度/2019年度	2019年度/2018年度
青山学院大	57,822	8,262	60,404	8,136	-2,582	+126	96	96	102	111
学習院大	16,932	3,656	19,143	3,756	-2,211	-100	88	94	97	107
慶應義塾大	38,454	8,590	41,875	8,797	-3,421	-207	92	97	98	100
駒澤大	28,825	8,139	48,715	7,093	-19,890	+1,046	59	109	115	83
上智大	26,156	5,476	27,916	4,765	-1,760	+711	94	90	115	94
専修大	51,024	11,559	56,201	8,355	-5,177	+3,204	91	123	138	99
中央大	86,476	17,026	92,686	17,059	-6,210	-33	93	105	100	112
東京理科大	56,355	15,727	60,593	15,539	-4,238	+188	93	107	101	98
東洋大	101,776	27,048	122,010	23,868	-20,234	+3,180	83	106	113	111
日本大	113,902	34,060	100,853	28,689	+13,049	+5,371	113	88	119	98
法政大	103,628	18,591	115,447	17,896	-11,819	+695	90	94	104	102
明治大	103,035	22,304	111,755	22,040	-8,720	+264	92	93	101	104
立教大	61,308	12,152	68,796	11,218	-7,488	+934	89	96	108	107
早稲田大	104,576	14,513	111,338	14,566	-6,762	-53	94	95	100	100
京都産業大	56,220	9,834	55,350	8,708	+870	+1,126	102	109	113	142
同志社大	49,946	15,412	53,751	15,232	-3,805	+180	93	92	101	94
立命館大	103,669	30,962	94,198	27,387	+9,471	+3,575	110	96	113	110
龍谷大	53,281	12,625	55,444	10,366	-2,163	+2,259	96	107	122	110
関西大	87,625	16,189	93,452	16,789	-5,827	-600	94	101	96	104
近畿大	145,320	34,034	154,672	27,893	-9,352	+6,141	94	99	122	108
関西学院大	33,209	8,332	38,826	9,304	-5,617	-972	86	92	90	94
甲南大	18,999	4,546	22,891	4,329	-3,892	+217	83	116	105	97
22大学合計	1,498,538	339,037	1,606,316	311,785	-107,778	+27,252	93	99	109	104

◇指数は、いずれも前年度を100とする数値を表す。

上のグラフと表は、2020年度入試における主要私立22大学の大学別入試結果をまとめたものです。

志願者数が増加したのは、日本大(113)、立命館大(110)、京都産業大(102)の3大学のみで、22大学合計(93)では2年連続減少となりました。減少数は前年度の約5.7倍増となりましたが、これは受験人口の減少に加えて、前年度厳しかったセンター利用方式への敬遠と当初予定されていた2021年度の大規模な入試改革への不安から志望が弱気になる、いわゆる「安全志向」が強まったことが要因です。

大学別では、駒澤大(59)、東洋大(83)の2万人前後という減少数の多さが目立ちました。駒澤大は、前年度志願者数が約9%増加したにもかかわらず、合格者数を17%減少させるという厳しい入試だったことから敬

2020 年度入試状況分析【私立大】

遠されました。特にセンター試験利用方式(41)は、前年度の合格最低点が大きくアップしたことが影響して6割近い大幅減少となり、大学全体の減少数の約66%がセンター利用方式での減少数でした。

東洋大は、前年度まで志願者数が5年連続増加し、近畿大に次いで全国で2番目の志願者数となり、これに伴い難易度がアップしたことにより慎重な出願となりました。特にセンター利用方式(68)は、駒澤大同様に前年度の合格最低点をアップさせたことが影響して30%以上の大幅減少となり、大学全体の減少数の約83%がセンター利用方式での減少数でした。

最難関大の慶應義塾大(92)は3年連続減少、早稲田大(94)は2年連続減少でした。いずれも最難関大を敬遠する傾向が影響しました。

京阪神地区の8大学で増加した2大学のうち、立命館大は志願者数が初めて10万人を突破しました。15学部中増加したのは8学部でしたが、経営(145)、経済(129)、理工(120)などの大幅増加が影響しました。

近畿大(94)は2年連続減少でしたが、志願者数は145,320人と7年連続で全国最多でした。文理別では、理系8学部合計(102)では微増でしたが、文系6学部は人気低下のため全て減少し、合計(87)では減少と対照的な志願状況でした。

□合格者数は16大学で増加、競争は22大学全てで緩和

合格者数は16大学で増加し、22大学合計(109)では2年連続増加となりました。増加数は前年度の約2.4倍増となりました。志願者数と合格者数の増減率を比べると、志願者数が増加した3大学も含めて22大学全てで競争が緩和しました。

大学別では、2,000人以上増加した大学は前年度の4大学から6大学に、15%以上の大幅増加だった大学は前年度の1大学から6大学にそれぞれ増加しました。大学別では、近畿大(122)が6,141人、日本大(119)は5,371人といずれも20%前後の大幅増加でした。近畿大は正規合格者数(114)を前年度より3,800人以上多く発表していましたが、それだけでは募集人員が埋まらず、追加合格者数(349)も前年度より2,200人以上も多く発表しました。「合格者指数-志願者指数」の数値で見ると、日本大は+6ポイントで競争は緩和しました。また、駒澤大は+56ポイント、専修大は+47ポイントと合格者数指数のアップが非常に大きく、前年度は競争激化が特に目立った2大学の競争が大きく緩和しました。